

令和 8 年度

参 考 図 書

事 業 名： 道路メンテナンス補助事業

工 事 場 所： 竹原市 西野町 ほか

工 事 名： 赤坂湯坂 2 号橋ほか補修工事

建設リサイクル法 12 条 13 条 有

- 【添付書類】
- 総括情報表
 - 本工事費内訳表
 - 数量計算書
 - 参考図 等

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 50 竹原市 00-08.06.01(0) 1 公共(一般)	<<凡例>> Co・・・コンクリート As・・・アスファルト DT・・・ダンプトラック BH・・・バックホウ CC・・・クローラクレーン TC・・・トラッククレーン RTC・・・ラフテレーンクレーン
	当世代	前世代
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 ICT補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	41 橋梁保全工事 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

本工事費(赤坂湯坂2号橋) 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費(赤坂湯坂2号橋)					X1000
橋梁保全工事					Y1G03 レベル1
舗装工	1	式			Y1G0304 レベル2
舗装打換え工	1	式			Y1G030402 レベル3
舗装版切断 【As舗装版, 舗装厚4cm】	1	式			Y1G03040201 レベル4
舗装版切断 アスファルト舗装版 アスファルト舗装版厚15cm以下	24	m			SPK25040307 00
舗装版破碎(小規模) 【As舗装版】	24	m			単第0 -0001 表
舗装版破碎積込(小規模土工)	10	m ²			Y1G03040203 レベル4
クラック抑制シート張	10	m ²			SPK25040018 00
	10	m			単第0 -0002 表
	10	m			Y4999 レベル4

本工事費(赤坂湯坂2号橋)

内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
クラック防止シート張	10	m			SPK25040310 00 単第0 -0003 表
クラック抑制シート ガラス基材 幅100cm	11	m			F0000000001 00
表層 【As混合物, 改質Ⅱ型13, 舗装厚3cm】	10	m ²			Y1G03040211レベル4
表層(車道・路肩部) 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) 1層当り平均仕上厚30mm	10	m ²			SPK25040244 00 単第0 -0004 表
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
ひび割れ補修工	1	式			Y1G032404 レベル3
低圧注入工法 【エポキシ樹脂系3種】	1	構造物			Y1G03240402レベル4
ひび割れ補修工(低圧注入工法) 補修延べ延長25m未満の場合 L=11.4m	1	構造物			S1020035 00 単第0 -0005 表
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3

本工事費(赤坂湯坂2号橋)

内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
左官工法 【ポリマーセメントモルタル】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有】	1	構造物			Y1G03240501 レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.248m3	1	構造物			S1020041 00 単第0 -0006 表
表面保護工 表面含浸工	1	式			Y3999 レベル3
表面含浸工 サンダーケレン シラン系鉄筋腐食抑制材	33	m2			Y4999 レベル4
表面含浸工	33	m2			V0000000001 00 単第0 -0007 表
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
運搬処理工	1	式			Y1G032716 レベル3
殻運搬 【コンクリート殻】	0.2	m3			Y1G03271601 レベル4
殻運搬 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離9.0km以下(7.0km超)	0.2	m3			SPK25040155 00 単第0 -0008 表

本工事費(赤坂湯坂2号橋)

内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻運搬 【アスファルト殻】	0.3	m3			Y1G03271601レベル4
殻運搬 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離9.0km以下(7.0km超)	0.3	m3			SPK25040155 00 単第0 -0008 表
殻処分 【コンクリート殻】	0.2	m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート塊受入費 再生工場搬入	0.6	t			T9005 00
殻処分 【アスファルト殻】	0.3	m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
アスファルト殻受入費 再生工場搬入	0.7	t			T9006 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2

本工事費(赤坂湯坂2号橋) 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
交通管理工	1	式			Y1G032821 レベル3
交通誘導警備員	2	人			Y1G03282101 レベル4
交通誘導警備員B	2	人			R0369 00
直接工事費 #0020計=支給品等(材料), 無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
共通仮設費計					
純工事費					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					

本工事費(赤坂湯坂2号橋) 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
工事原価					
一般管理费率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
工事価格					
消費税相当額 計算情報…… 対象額…… 率……					
工事費計					
契約保証費計					

施工単価表

頁0 -0008

舗装版切断

SPK25040307

単第0 -0001 表

アスファルト舗装版

アスファルト舗装版厚15cm以下

1

m 当り

機械構成比: 15.05%

労務構成比:

58.43%

材料構成比:

26.52%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

700.44000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径φ56cm	10.24%		コンクリートカッター バキューム式(超低騒音型)・湿式 切削深20cm級ブレード径φ56cm		MTPC00164 MTPT00164
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	19.96%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
土木一般世話役	10.88%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
普通作業員	8.92%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
その他(労務)			その他(労務)		ER009
コンクリートカッターブレード 自走式切断機用 径45cm(18インチ)	22.39%		コンクリートカッターブレード 径18インチ		TTPC00394 TTPT00394
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	2.81%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

頁0 -0010

舗装版破碎積込(小規模土工)

SPK25040018

単第0 -0002 表

機械構成比: 20.13% 労務構成比: 71.97% 材料構成比: 7.90% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 1,747.00000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3	20.13%		小型バックホウ(クローラ型) 標準型・排2 山積0.13/平積0.10m3		MTPC00077 MTPT00077
運転手(特殊)	71.97%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	7.90%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=1 -(全ての費用)					

施工単価表

頁0 -0011

クラック防止シート張

SPK25040310

単第0 -0003 表

機械構成比: 7.57% 労務構成比: 91.58% 材料構成比: 0.85% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 340.46000

1 m 当り

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
タイヤローラ 普通型・排2014 運転質量13~14t	6.59%		タイヤローラ 普通型・排2014 運転質量13~14t		MTPC00177 MTPT00177
その他(機械)			その他(機械)		EK009
普通作業員	50.01%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	18.21%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
運転手(特殊)	5.77%		運転手(特殊)		RTPC00006 RTPT00006
特殊作業員	5.65%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
その他(労務)			その他(労務)		ER009
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	0.74%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009

施工単価表

頁0 -0013

表層(車道・路肩部)

SPK25040244

単第0 -0004 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚30mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.45%

労務構成比:

45.70%

材料構成比:

53.85%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

2,805.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t	0.25%		振動ローラ(舗装用) ハンドガイド式 運転質量0.5~0.6t		MTPC00047 MTPT00047
振動コンパクタ 前進型 運転質量40~60kg	0.14%		振動コンパクタ 前進型 運転質量40~60kg		MTPC00049 MTPT00049
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員	20.17%		特殊作業員		RTPC00001 RTPT00001
普通作業員	14.48%		普通作業員		RTPC00002 RTPT00002
土木一般世話役	4.41%		土木一般世話役		RTPC00009 RTPT00009
その他(労務)			その他(労務)		ER009
アスファルト混合物 改質Ⅱ型 密粒度13	52.05%		密粒度As混合物(20) [標準数量]平均仕上り厚50mm		F000000009 TTPT00284
アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用	1.57%		アスファルト乳剤(JISK2208) アスファルト乳剤(浸透用) PK-4タックコート用		TTPC00027 TTPT00027

施工単価表

表層(車道・路肩部)

SPK25040244

単第0 -0004 表

平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下)

1層当り平均仕上厚30mm

1

m2 当り

機械構成比: 0.45%

労務構成比:

45.70%

材料構成比:

53.85%

市場単価構成比:

0.00%

標準単価:

2,805.60000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ガソリン,レギュラー スタンド渡し,スタンド給油	0.17%		ガソリンレギュラースタンド		TTPC00014 TTPT00014
軽油 パトロール給油,2~4KL積載車給油	0.03%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		E9999
A=1 平均幅員1.4m未満(1層平均50mm以下) C=25 材料各種(2.30以上2.40t/m3未満) E=1 PK-4 H=1 -			B=30 1層当り平均仕上り厚(mm) D=9 【F】As混合物(t) G=2 小型車割増有 I=1 -(全ての費用)		
【アスファルト混合物単価】 1層当り平均仕上り厚(mm)/1000*(アスファルト混合物単価(円)+各種割増合計値) 1層当り平均仕上り厚(mm):30.000(mm)					

施工単価表

ひび割れ補修工(低圧注入工法)

S1020035

単第0 -0005 表

補修延べ延長25m未満の場合

L=11.4m

1

構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役	1.500	人			
特殊作業員	2.400	人			
普通作業員	1.800	人			
エポキシ樹脂系注入材(柔軟型)	0.300	kg			
エポキシ樹脂系シール材	5.206	kg			
補充可能型注入器具	46.000	本			
諸雑費	6	%			#09
*** 単位当たり ***	1	構造物			
A=2 【F】 注入材(kg)			B=0.3	注入材の必要数量(kg/構造物)	
C=3 【F】 シール材(kg)			D=3.8	シール材の設計数量(kg/構造物)	
E=4 【F】 低圧注入器具(個)			F=46	低圧注入器具の必要数量(個/構造物)	

施工単価表

頁0 -0018

殻運搬 SPK25040155 単第0 -0008 表
 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離9.0km以下(7.0km超) 1 m3 当り
 機械構成比: 20.25% 労務構成比: 71.03% 材料構成比: 8.72% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 6,479.10000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	20.25%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	71.03%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	8.72%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=4 機械積込(小規模土工) D=38 運搬距離9.0km以下(7.0km超)		

総括情報表

変更回数 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系	0 50 竹原市 00-08.06.01(0) 1 公共(一般)	<<凡例>> Co・・・コンクリート As・・・アスファルト DT・・・ダンプトラック BH・・・バックホウ CC・・・クローラクレーン TC・・・トラッククレーン RTC・・・ラフテレーンクレーン
	当世代	前世代
工種 施工地域・工事場所区分 復興補正区分 週休補正区分 現場事務所等の貸与区分 ICT補正区分 冬期補正係数 緊急工事区分 前払金支出割合区分 契約保証区分	41 橋梁保全工事 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 補正なし 00 通常工事 0% 00 補正無し 01 金銭的保証(0.04%)	
建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額，労務管理費，安全訓練等に要する費用等）が必要であり，本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。		

本工事費（賀茂川大橋） 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費（賀茂川大橋）					X1000
橋梁保全工事	1	式			Y1G03 レベル1
橋梁補修工	1	式			Y1G0324 レベル2
断面修復工	1	式			Y1G032405 レベル3
左官工法 【ポリマーセメントモルタル】 【鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理有】	1	構造物			Y1G03240501 レベル4
断面修復工(左官工法) (鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理を含む) 修復延べ体積0.1m3未満の場合	1	構造物			S1020039 00 単第0 -0001 表
表面保護工 表面含浸工	1	式			Y3999 レベル3
表面含浸工 サンダーケレン シラン系鉄筋腐食抑制材塗布	43	m2			Y4999 レベル4
表面含浸工	43	m2			V0000000001 00 単第0 -0002 表

本工事費（賀茂川大橋） 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
ゴム支承表面保護工	1	式			Y3999 レベル3
ゴム支承表面保護工	1	橋			Y4999 レベル4
ゴム支承表面保護工 清掃・保護材塗布 A=0.8㎡	1	橋			V000000002 00 単第0 -0003 表
支承防食工	1	式			Y3999 レベル3
素地調整・防食シート張	1	橋			Y4999 レベル4
支承防食工 素地調整・防食テープ張 A=0.16㎡	1	橋			V000000003 00 単第0 -0004 表
構造物撤去工	1	式			Y1G0327 レベル2
運搬処理工	1	式			Y1G032716 レベル3
殻運搬 【コンクリート殻】	0.02	m3			Y1G03271601 レベル4

本工事費（賀茂川大橋） 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
殻運搬 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離3.0km以下(2.5km超)	0.02	m3			SPK25040155 00 単第0 -0005 表
殻処分 【コンクリート殻】	0.02	m3			Y1G03271602レベル4
【直接工事費に含まれる処分費等】 「処分費等」の取扱いによる					#0041
コンクリート塊受入費 再生工場搬入	0.04	t			T9005 00
仮設工	1	式			Y1G0328 レベル2
足場工	1	式			Y3999 レベル3
足場工	1	式			Y4999 レベル4
足場工(床版補強工) 桁高1.5m未満	33	m2			S3030011 00 単第0 -0006 表
防護工(床版補強工) シート張防護工 両側朝顔	33	m2			S3030015 00 単第0 -0007 表

本工事費（賀茂川大橋） 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
足場工（朝顔）（床版補強工） 両側朝顔	33	m2			S3030013 00 単第0 -0008 表
シート張防護工(側面)	33	m2			S3070085 00 単第0 -0009 表
直接工事費 #0020計=支給品等(材料), 無償貸付					
共通仮設費率分					Z0019
計算情報…… 対象額…… 率……					
共通仮設費計					
純工事費					
現場管理費 計算情報…… 対象額…… 率……					
工事原価					

本工事費（賀茂川大橋） 内訳表

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
一般管理费率分 計算情報…… 対象額…… 率……					前払補正率…
契約保証費 計算情報…… 対象額…… 率……					当初請対額 当初対象額
一般管理費計					
** 工事価格 **					
** 消費税相当額 ** 計算情報…… 対象額…… 率……					
** 工事費計 **					
** 契約保証費計 **					

施工単価表

頁0 -0011

殻運搬 SPK25040155 単第0 -0005 表
 舗装版破碎 DID区間無し 運搬距離3.0km以下(2.5km超) 1 m3 当り
 機械構成比: 20.25% 労務構成比: 71.03% 材料構成比: 8.72% 市場単価構成比: 0.00% 標準単価: 3,455.50000

代表機労材規格(積算地区)	構成比	単価(積算地区)	代表機労材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)	20.25%		ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級 (タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む)		MTPC00016T1 MTPT00016T1
運転手(一般)	71.03%		運転手(一般)		RTPC00007 RTPT00007
軽油 パトロール給油, 2~4KL積載車給油	8.72%		軽油パトロール給油		TTPC00013 TTPT00013
積算単価			積算単価		EP001
A=3 舗装版破碎 C=1 DID区間無し E=1 -(全ての費用)			B=4 機械積込(小規模土工) D=13 運搬距離3.0km以下(2.5km超)		

4.1 補修数量総括表
橋梁名：赤坂湯坂2号橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベル5 規格	単位	数量	計上 数量	備考
橋梁保全工事								
橋梁補修工	ひびわれ補修工 低圧注入工法		低圧注入工法 (ひびわれ注入工)	エポキシ樹脂系3種 延べ延長	m	11.4	11	
				ひびわれ注入工 1構造物当り延べ延長	m	11.4	11	
				シーリング材 エポキシ樹脂系	kg	3.8	3.8	ロス率37%を含む
				注入材 エポキシ樹脂系3種	kg	0.3	0.3	ロス率40%を含む
				注入器 低圧注入器	個	46	46	設置間隔：250mm間隔
	断面修復工 左官工法		左官工法	鉄筋ケレン・防錆処理を含む	m ³	0.248	0.248	
				左官工法 1構造物当り延べ体積	m ³	0.248	0.248	
				断面修復材	m ³	0.293	0.293	ロス率18%を含む
				鉄筋ケレン・防錆処理を含む	m ³	0.293	0.293	
				殻運搬	m ³	-	-	運搬処理工にて計上
				殻処分	m ³	-	-	運搬処理工にて計上
	表面保護工 表面含浸工		下地処理	サンダーケレン	m ²	33.45	33	
				含浸材塗布工	m ²	33.45	33	
				含浸材	ℓ	20.1	20.1	標準使用量：0.60ℓ/m ²
				材料ロス	ℓ	1.0	1.0	ロス率：5%
	舗装版切断工	舗装版切断	アスファルト舗装 t=15cm以下	m	24.2	24	車道・路肩部	
	舗装版破砕工		舗装版破砕	アスファルト舗装 障害有り 厚4cm以下 積込有り	m ²	10.1	10	
				殻運搬	m ³	-	-	運搬処理工にて計上
				殻処分	m ³	-	-	運搬処理工にて計上
				がれき類	t	-	-	運搬処理工にて計上
	舗装版クラック補修工 クラック防止シート		クラック抑制シート	ガラス基材 b=100cm	m	10.1	10	
				材料ロス	m	1.1	1	ロス率：11%
				材料合計	m	11.2	11	
				クラック防止シート張	m	10.1	10	
	アスファルト舗装工	表層(車道・路肩部)	改質Ⅱ型密粒度(13) t=3cm タックコート	m ²	10.1	10	5.05m(1車線当り2.5m)	
	構造物撤去工	運搬処理工	殻運搬	コンクリート構造物	m ³	0.2	0.2	
				運搬距離10km DID区間：無し(距離は想定)	m ³	0.2	0.2	
舗装版破砕				m ³	0.3	0.3		
運搬距離10km DID区間：無し(距離は想定)				m ³	0.3	0.3		
殻処分				m ³	0.2	0.2		
がれき類 コンクリート殻				t	0.6	0.6		
仮設工	交通管理工	交通誘導警備員	交通誘導警備員B	人	2	2		

4.2 ひびわれ補修工

補修図（その1）より

4.2.1 低圧注入工法（ひびわれ注入工）

(1) 1構造物当り補修延べ延長

1) エポキシ樹脂注入材3種

$$L = 11.40 = 11.40 \text{ m}$$

(2) シール材

1) エポキシ樹脂系

$$w = 50 \text{ mm (仮定)}$$

$$t = 3 \text{ mm (仮定)}$$

$$\gamma = 1.60 \text{ (仮定)}$$

$$W = 11.40 \times 0.050 \times 0.003 \times 1.60 \times 1000 \times (1 + 0.37) = 3.75 \text{ kg}$$

ロス率37%

(3) 注入材

1) エポキシ樹脂注入材3種

$$w = 0.30 \text{ mm (加重平均)}$$

$$t = 60 \text{ mm (加重平均)}$$

$$\gamma = 1.15 \text{ (仮定)}$$

$$W = 11.40 \times 0.00030 \times 0.060 \times 1.15 \times 1000 \times (1 + 0.40) = 0.33 \text{ kg}$$

ロス率40%

(4) 注入器（低圧注入器）

・設置間隔：250mm間隔

$$N = 11.40 / 0.25 = 46 \text{ 個}$$

4.2.2 ひびわれ補修工 数量表

番号	部 位	ひびわれ				深さ t (mm)	備 考
		w (mm)		L (m)			
1	頂版・側壁						
1		0.20		0.20		40	
2		0.20		0.20		40	
3		0.20		0.20		40	
4		0.20		0.30		40	
5		0.30		1.40		60	
6		0.20		0.70		40	
7		0.20		0.20		40	
8		0.30		0.30		60	
9		0.30		0.80		60	
10		0.30		0.30		60	
11		0.20		0.15		40	
12		0.20		0.65		40	
13		0.40		0.70		80	
14		0.20		0.30		40	
15		0.20		0.70		40	
16		0.30		0.90		60	
17		0.30		0.30		60	
18		0.30		0.60		60	
19		0.40		0.90		80	
20		0.30		0.50		60	
21		0.50		1.10		100	
	小計			11.40			注入：エポキシ3種
0.2≦w<0.5mm 合計延長		幅 加重平均		10.30		深さ	
0.5≦w<1.0mm 合計延長		(注入工のみ)		1.10		加重	
1.0≦w≦5.0mm 合計延長		0.30		-		平均	
5.0mm< 合計延長		-		-		60	
		0.2≦w <0.5mm	0.5≦w <1.0mm	1.0≦w ≦5.0mm	5.0mm<w	合 計	
注入：エポキシ1種合計		-	-	-	-	-	
注入：エポキシ2種合計		-	-	-	-	-	
注入：エポキシ3種合計		10.30	1.10	-	-		11.40
充填：ポリマーセメント系合計		-	-	-	-	-	
充填：可とう性エポキシ樹脂系合計		-	-	-	-	-	
充填：シーラント系合計		-	-	-	-	-	
合 計		10.30	1.10	-	-		11.40

4.3 断面修復工（左官工法）

断面修復深さは以下の通りとする。

- ・ 鉄筋探査により確認された純かぶり 10 mm
- ・ はつり調査により確認された純かぶり 5 mm

ゆえに、断面修復深さは、鉄筋探査により確認された10mmを基本とし、

$$\begin{array}{ccccccc} 10 & + & 19 & + & 10 & = & 39 \text{ mm} \Rightarrow 40 \text{ mm} \text{とする。} \\ & & \text{鉄筋径} & & \text{余裕長} & & \end{array}$$

4.3.1 左官工法

(1) 1構造物当り延べ体積

1) 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$V = 0.248 = 0.248 \text{ m}^3$$

4.3.2 断面修復材

(1) ポリマーセメントモルタル

1) 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$V = 0.248 \times \left(1 + \frac{0.18}{\text{ロス率18\%}} \right) = 0.293 \text{ m}^3$$

4.3.3 殻運搬（※ 運搬処理工にて計上）

(1) コンクリート構造物

$$V = 0.248 = 0.248 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

4.3.4 殻処分（がれき類）（※ 運搬処理工にて計上）

$$V = 0.248 = 0.248 \text{ m}^3$$

$$W = 0.248 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.583 \text{ t}$$

4.4 表面保護工（表面含浸工）

補修図（その2）より

4.4.1 表面含浸工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

(1) 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 33.451 = 33.451 \text{ m}^2$$

(2) 含浸材塗布工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$A = 33.451 = 33.451 \text{ m}^2$$

(3) 含浸材（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$v1 = 33.451 \times \underset{\text{標準使用量}}{0.60} \text{ l/m}^2 = 20.071 \text{ l}$$

$$v2 = 20.071 \times \underset{\text{ロス率5\%}}{0.05} = \frac{1.004 \text{ l}}{\Sigma W = 21.075 \text{ l}}$$

4.5 舗装版切断工

補修図（その3）より

4.5.1 舗装版切断 （アスファルト舗装 t=15cm以下）

(1) 車道・路肩部 （t=3cm(想定)）

$$L = 5.050 \times 4 + 1.000 \times 4 = 24.200 \text{ m}$$

4.6 舗装版破碎工

補修図（その3）より

4.6.1 舗装版破碎

(1) アスファルト舗装 障害有り 厚4cm以下 積込有り

1) t=3cm

$$A = 5.050 \times 2 = 10.100 \text{ m}^2$$

4.6.2 殻運搬（※ 運搬処理工にて計上）

(1) 舗装版破碎

$$V = 10.100 \times 0.030 = 0.303 \text{ m}^3$$

4.6.3 殻処分（がれき類）（※ 運搬処理工にて計上）

$$V = 0.303 = 0.303 \text{ m}^3$$

$$W = 0.303 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.712 \text{ t}$$

4.7 舗装版クラック補修工

補修図（その3）より

4.7.1 クラック抑制シート （ガラス基材 b=100cm）

車道部

$$L1 = 5.050 \times 2 = 10.100 \text{ m}$$

材料ロス

$$L2 = 10.100 \times 0.11 = 1.111 \text{ m}$$

ロス率11%

4.7.2 クラック防止シート張 （クラック抑制シート）

$$L = 10.100 = 10.100 \text{ m}$$

4.8 アスファルト舗装工

補修図（その3）より

4.8.1 表層

(1) 車道・路肩部 (改質Ⅱ型密粒度(13) t=3cm タックコート)

$$A = 5.050 \times 2 = 10.100 \text{ m}^2$$

4.9 運搬処理工

4.9.1 殻運搬

※ 運搬は、「運搬距離10km DID区間:無し」程度を想定。

(1) コンクリート構造物

1) 断面修復工（左官工法）

$$V1 = 0.248 = 0.248 \text{ m}^3$$

(2) 舗装版破碎

1) 舗装版破碎工

$$V2 = 0.303 = 0.303 \text{ m}^3$$

$$\Sigma V = 0.551 \text{ m}^3$$

4.9.2 殻処分（がれき類）

(1) コンクリート殻

$$V = 0.248 = 0.248 \text{ m}^3$$

$$W = 0.248 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.583 \text{ t}$$

(2) アスファルト殻

$$V = 0.303 = 0.303 \text{ m}^3$$

$$W = 0.303 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.712 \text{ t}$$

交通誘導員配置日数根拠

種 別	細 別 ・ 規 格	単 位	全数量	能力/組	組数能力	実働日数 (日)
舗装打ち換え工	舗装版破碎積込 小規模	m2	10.0	23.0	21.0	0.43
	舗装版切断	m	24.0	203.0	21.0	0.12
	クラック防止シート張	m	10.0	930.0	21.0	0.01
	表層 1.4m以下	m2	10.0	250.0	2300.0	0.04
	合計日数	式	1			0.6

≒1

1×2人/日=2人

・本工事（赤坂湯坂2号橋）は次の単価を見込んでいる

コード	名称・規格1・規格2	単位	単価
F0000000001	クラック抑制シート ガラス基材 幅100cm	m	1,590
F0000000002	エポキシ樹脂系注入材（柔軟型）	kg	4,500
F0000000003	エポキシ樹脂系シール材	kg	2,630
F0000000004	補充可能型注入器具	本	420
F0000000005	ポリマーセメントモルタル（左官工法用）	m ³	380,000
F0000000006	下地処理 サンダーケレン	m ²	1,566
F0000000007	含侵材塗布	m ²	961
F0000000008	表面含侵材 シラン系鉄筋腐食抑制剤	L	8,280
F0000000009	アスファルト混合物 改質Ⅱ型 密粒度13	t	22,500

4.1 補修数量総括表

橋梁名：賀茂川大橋

レベル1 工事区分	レベル2 工種	レベル3 種別	レベル4 細別	レベ ル 格 5	単位	数量	計上 数量	備 考
橋梁保全工事								
橋梁補修工	断面修復工 左官工法	左官工法	鉄筋ケレン・防錆処理を含む	m ³	0.018	0.018		
			左官工法 1構造物当り延べ体積	m ³	0.018	0.018		
		断面修復材	ポリマーセメントモルタル	m ³	0.021	0.021	ロス率18%を含む	
			鉄筋ケレン・防錆処理を含む	m ³	0.02	0	運搬処理工にて計上	
			コンクリート構造物	m ³	0.02	0	運搬処理工にて計上	
			がれき類	m ³	0.02	0	運搬処理工にて計上	
		t	0.04	0	運搬処理工にて計上			
	表面保護工 表面含浸工	下地処理	サンダーケレン	m ²	43.2	43		
			シラン系鉄筋腐食抑制材	m ²	43.2	43		
		含浸材	シラン系鉄筋腐食抑制材	ℓ	25.9	25.9	標準使用量：0.60ℓ/m ²	
			材料ロス	ℓ	1.3	1.3	ロス率：5%	
	ゴム支承表面保護工	簡易清掃	クロロプレーンゴム系	m ²	0.8	0.8		
			HBコート ソフトタイプ同等品以上	m ²	0.8	0.8		
		ゴム表面保護材塗布	クロロプレーンゴム系	本	1	1		
			HBコート ハードタイプ同等品以上	m ²	0.8	0.8		
			HBコート ハードタイプ同等品以上	本	1	1		
	支承防食工	素地調整	2種ケレン	m ²	0.16	0.16		
マイクrokリスクリンワックス系防食テープ			m ²	0.16	0.16			
構造物撤去工	運搬処理工	殻運搬	コンクリート構造物	m ³	0.02	0.02		
			がれき類	m ³	0.02	0.02		
			t	0.04	0.04			
仮設工	仮設足場工	橋脚回り足場	タイプF	m ²	33	33		
			タイプF 床面にシート張防護を追加	m ²	33	33		
			タイプF 手摺を朝顔に変更	m ²	33	33		
			タイプF 朝顔にシート張防護を追加	m ²	33	33		

4.3 断面修復工（左官工法）

断面修復深さは以下の通りとする。

（主桁・横桁）

- 鉄筋探査により確認された純かぶり 33 mm

$$33 + 16 + 10 = 59 \text{ mm} \Rightarrow 60 \text{ mmと}す。 \\ \text{鉄筋径} \quad \text{余裕長}$$

※鉄筋径は確認されていないため想定とする。

（橋脚）

- 橋脚梁部での鉄筋探査等を行われていないが、外観目視より鉄筋かぶりが小さいと考えられるため、50mmとする。

4.3.1 左官工法

(1) 1構造物当り延べ体積

1) 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$V = 0.018 = 0.018 \text{ m}^3$$

4.3.2 断面修復材

(1) ポリマーセメントモルタル

1) 鉄筋ケレン・防錆処理を含む

$$V = 0.018 \times (1 + \frac{0.18}{\text{ロス率18\%}}) = 0.021 \text{ m}^3$$

4.3.3 殻運搬（※ 運搬処理工にて計上）

(1) コンクリート構造物

$$V = 0.018 = 0.018 \text{ m}^3$$

※ 殻数量は、断面修復数量と同量と仮定した。

4.3.4 殻処分（がれき類）（※ 運搬処理工にて計上）

$$V = 0.018 = 0.018 \text{ m}^3$$

$$W = 0.018 \times 2.35 \text{ t/m}^3 = 0.042 \text{ t}$$

4.3.5 左官工法 数量表

番号	部 位	形 状 ・ 寸 法 (m × m)	補修面積 (m ²)	補修深さ (m)	塗布面積 (m ²)	補修体積 (m ³)	備 考
D	P1橋脚						
1		0.20 × 0.40	0.080	0.050	0.140	0.0040	
2		0.05 × 0.05	0.003	0.050	0.013	0.0002	
3		0.05 × 0.05	0.003	0.050	0.013	0.0002	
4		0.05 × 0.05	0.003	0.050	0.013	0.0002	
5		0.05 × 0.05	0.003	0.050	0.013	0.0002	
6		0.05 × 0.05	0.003	0.050	0.013	0.0002	
7		0.05 × 1.70	0.085	0.050	0.260	0.0043	
8		0.10 × 0.05	0.005	0.050	0.020	0.0003	
9		0.10 × 0.15	0.015	0.050	0.040	0.0008	
10		0.15 × 0.20	0.030	0.050	0.065	0.0015	
11		0.10 × 0.30	0.030	0.050	0.070	0.0015	
12		0.10 × 0.20	0.020	0.050	0.050	0.0010	
13		0.20 × 0.20	0.040	0.050	0.080	0.0020	
14		0.20 × 0.20	0.040	0.050	0.080	0.0020	
	小計		0.360		0.870	0.0184	ケレン・防錆:有
	鉄筋ケレン・防錆処理を含む合計		0.360		0.870	0.018	
	鉄筋ケレン・防錆処理を含まない合計						
	合計		0.360		0.870	0.018	

4.4 表面保護工（表面含浸工）

補修図（その10～14）より

4.4.1 表面含浸工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

(1) 下地処理（サンダーケレン）

$$A = 43.165 = 43.165 \text{ m}^2$$

(2) 含浸材塗布工（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$A = 43.165 = 43.165 \text{ m}^2$$

(3) 含浸材（シラン系鉄筋腐食抑制材）

$$v1 = 43.165 \times \underset{\text{標準使用量}}{0.60} \text{ l/m}^2 = 25.899 \text{ l}$$

$$v2 = 25.899 \times \underset{\text{ロス率5\%}}{0.05} = 1.295 \text{ l}$$

$$\Sigma W = 27.194 \text{ l}$$

4.5 支承表面保護工

補修図（その15）より

4.5.1 ゴム支承表面保護工（クロロプレンゴム系）

(1) 簡易清掃

P1上(起点側)

$$a1 = 0.500 \times 0.070 \times 4 \times 3 = 0.420 \text{ m}^2$$

P1上(終点側)

$$a2 = 0.500 \times 0.070 \times 4 \times 3 = 0.420 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 0.840 \text{ m}^2$$

(2) ゴム表面保護材塗布（クロロプレンゴム系）

1) HBコート ソフトタイプ同等品以上

$$A = 0.840 = 0.840 \text{ m}^2$$

$$N = 0.840 \times 1.0 \text{ m}^2/\text{本} = 0.8 \text{ 本}$$

≒ 1 本

2) HBコート ハードタイプ同等品以上

$$N = 0.840 \times 1.0 \text{ m}^2/\text{本} = 0.8 \text{ 本}$$

≒ 1 本

4.7 支承防食工

補修図（その5～7）より

4.7.1 支承防食工（防食テープ）

(1) 素地調整（2種ケレン）

$$\begin{array}{l} a1 = \pi \times 0.032 \times 0.110 \times 4 \\ \text{(A1橋台)} \end{array} = 0.044 \text{ m}^2$$

$$\begin{array}{l} a2 = \pi \times 0.032 \times 0.100 \times 8 \\ \text{(P1橋脚)} \end{array} = 0.080 \text{ m}^2$$

$$\begin{array}{l} a3 = \pi \times 0.032 \times 0.090 \times 4 \\ \text{(A2橋台)} \end{array} = 0.036 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 0.160 \text{ m}^2$$

(2) 防食テープ（マイクロクリスタリンワックス系防食テープ）

$$A = 0.160 = 0.160 \text{ m}^2$$

4.16 仮設足場工

仮設図（参考図）より

4.16.1 吊足場

4.16.2 橋脚回り足場（タイプF）

(1) 橋脚回り足場

$$a1 = (7.300 + 1.000 \times 2) \times 1.500 \times 2 = 27.900 \text{ m}^2$$

$$a2 = 1.700 \times 1.500 \times 2 = 5.100 \text{ m}^2$$

$$\Sigma A = 33.000 \text{ m}^2$$

(2) 床面部（タイプF 床面にシート張防護を追加）

$$A = 33.000 = 33.000 \text{ m}^2$$

(3) 朝顔部（タイプF 手摺を朝顔に変更）

$$A = 33.000 = 33.000 \text{ m}^2$$

(4) 朝顔部（タイプF 朝顔にシート張防護を追加）

$$A = 33.000 = 33.000 \text{ m}^2$$

・本工事（賀茂川大橋）は次の単価を見込んでいる

コード	名称・規格1・規格2	単位	単価
F0000000001	HBコート ソフト型 180cc/本 表面塗布用	本	45,000
F0000000002	HBコート ハード型 100cc/本 表面クラック部 充填用	本	45,000
F0000000003	WAX-TAPE WT-G10-1 地上構造用 (100mm×2.74m)	巻	13,400
F0000000004	補充可能型注入器具 WAX-TAPE プライマー 標準用850g/缶	缶	10,800
F0000000005	ポリマーセメントモルタル (左官工法用)	m ³	380,000
F0000000006	下地処理 サンダーケレン	m ²	1,566
F0000000007	含侵材塗布	m ²	961
F0000000008	表面含侵材 シラン系鉄筋腐食抑制剤	L	8,280
F0000000009	雑材料	式	12,880